

か

が

や

き

# No.140



さくらベーカリーのパン



公園清掃



販売している石鹸



施設前でお花見

## INDEX

「令和6年度報酬改定」について …………… 2	人権擁護委員会「じんけん Board」 …………… 6
第18回東京大集会 …………… 3	施設紹介 「江北ひまわり園」…………… 8
保健医療スタッフ会学習会…………… 4	施設紹介 「は〜と・ピア」…………… 9
令和6年度第1回総会…………… 5	リレーコラム、編集後記…………… 10

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  **東京都社会福祉協議会**

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



# 「令和6年度報酬改定」について

部会長 **小池 朗**  
(板橋区立赤塚福祉園)

今回の報酬改定は、医療・介護・障害福祉の3つの報酬が同時に改定される、6年に1度のトリプル改定でした。昨今の物価高や賃上げへの対応として全体的にはプラス改定となっています。障害福祉分野においては、処遇改善に加えて、「障害者が希望する地域生活の実現」、「サービスの質の確保・向上」、「サービスの質等に応じたメリハリのある報酬設定」を踏まえた改定が行われましたが、具体的な改定内容が年度末まで示されなかったことで、現場サイドでは大きな混乱をきたしたことと思います。特に、サービス提供時間別の基本報酬の設定については、送迎時間などへの一定の配慮の具体的な内容が明確ではなく、区市町村によって対応が分かれるなど、運営に直結する問題となってしまいました。報酬改定の際には、ある程度の混乱が生じるのは致し方ない面もあるかとは思いますが、事業者の不安は、利用されている方々の不安につながる事なので、事業者側も3年後の改定に向けて早めに動き出すことが必要であると思います。報酬改定は、単に収入の問題ではなく今後の障害福祉のあり方、方向性を示すものであるため、障害のある方の生活を支え

ている「現場」にいる事業者から積極的に伝えていくことで、より良い報酬改定となるのではないのでしょうか。

今回の報酬改定で重点項目として示された「障害者が希望する地域生活の実現」は、何よりも大切なことであると思います。「希望する地域生活」は一人ひとり違うものですし、違ってあたりまえのものであると思います。そして、理想とすることと現実はずしも同じではありません。報酬改定が目指すゴールは理想であるべきですが、現実には生活していることは事実として受け止める必要があると思います。その事実を私たち事業者が示していかなければいけないのではないのでしょうか。国全体の報酬改定では対応しきれないであろう、東京都をはじめとした大都市特有の課題を明らかにすることなども、私たち「現場」にいる者の役割なのではないのでしょうか。「障害者が希望する地域生活の実現」のために、私たち事業者は何をなすべきなのかを、今回の報酬改定を機に、あらためて考えていきたいと思っています。

## 第18回 東京大集会

# 「くらしの場を選ぶこと」

広報委員 松沢一樹

(江東園ケアセンターつばき えぼっく)

今年で18回目を迎えた東京大集会が、9月4日（土）にYouTubeライブで配信されました。開会にあたり、実行委員長の小池朗氏は、障害のある都民が自ら生活を選択できる環境を保障するため、これまで多様な施策を提言してきたことを紹介し、質と量を両立した行政施策の必要性を強調しました。生活の場を選ぶ権利が重要であり、どこで、誰と暮らすかは国民として保障された権利として、ご本人自身が選べる生活を共に目指していきたいという述べました。

その後、各団体からの発表が行われ、東京都手をつなぐ育成会は、一人暮らしを目指す当事者の取り組みを紹介。日本ダウン症協会は、乳幼児期の母親ケアの重要性と、ダウン症専門医療機関の不足を指摘しました。東京知的障害児・者入所施設保護者会連絡協議会は都外施設の紹介動画を上映。東京都自閉症協会は、自閉症当事者が自身の境遇を通じて「生活の質」をテーマに焦点を当てた発表を行い、東京都発達障害支援協会は、グループホームの事例を報告し個々の生きがいを大切にしたい暮らしの場作りの重要性が強調されました。東京都社会福祉協議会知的発達障害部会は、当事者の生活に関するインタビュー動画を発表しました。

続いて、東京都議会の5つの会派の議員が登壇

し、障害者福祉に関するパネルディスカッションが行われました。磯山氏は、グループホーム建設費補助や人材確保のための施策を報告し、あかねがくぼ氏は重度障害者向けグループホーム設置の必要性を強調しました。高倉氏は人材育成の重要性を訴え、里吉氏は土地の確保や賃金向上を提案。鈴木氏は空き家の活用と家賃補助制度を提案しました。

最後に主催団体よりアピール文の発表があり、閉会となりました。アピール文の表題4点は以下の通りです。

- ① 知的・発達障害児・者の人権を守り、権利を擁護してください。
- ② 知的・発達障害児・者の暮らしの場を抜本的に整備してください。
- ③ 障害者が安心して暮らせる仕組みを作ってください。
- ④ 障害者への理解促進及び差別解消のための東京都条例の精神が広く都民及び民間事業者に理解されるよう、普及に努めてください。

今回の東京大集会の様子は、後日東京都社会福祉協議会知的発達障害部会のホームページ内にて、オンデマンド配信を予定しています。準備が整いましたらご案内致しますので、ぜひご覧ください。

## 保健医療スタッフ会学習会

# 利用者支援研究会保健医療スタッフ会学習会を開催しました。

保健医療スタッフ会代表幹事 林 武文  
(社会福祉法人同愛会日の出福祉園)

8月28日に保健医療スタッフ会主催の2024年度の第1回目の学習会「身体拘束の身体弊害」を開催しました。

身体拘束に関する手続き上の不備がサービス報酬の減算要件となり、切迫性、非代替性、一時性という三要件が広く知られるようになりました。今回の学習会の狙いは、それに関連した手続き論ではなく「身体拘束とはそもそもどういったものなのか」ということを、身体拘束される側の視点から考えることでした。三要件+ $\alpha$ （個別支援計画、経時記録、同意書）だけで身体拘束が良しとされると、利用者さんの生命に関わる重大事故が発生してしまうのではないかという思いが、私たち保健医療スタッフにあったからです。拘束具の使用法や支援者側の手技、そして何に注意して観察していく必要があるのか、それらが支援者に共有されていないければ、精神科病院で相次いでいる身体拘束中の死亡事故が福祉現場で発生してもおかしくありません。

当日会場でご参加いただいた方のうち、2名にベッドと車椅子それぞれの拘束体験にご協力いただきました。参加者の内訳は保健医療スタッフよりも支援スタッフの参加が圧倒的に多く、抑制帯を初めて目にする人もたくさんいました。

本学習会ではこれまでの学習会でも度々お世話になっている内科医の吉川健明氏を講師にお招きし、「身体拘束がなぜ身体に悪いのか」についてご講義いただきました。



吉川先生は医師としての立場から身体拘束を指示した経験、また家族の立場で、身体拘束に同意を迫られた経験、さらに精神障害当事者としてご自身が身体拘束を受けた経験をお持ちです。そのような様々なお立場からの貴重なお話をお伺いすることができました。

講演後の質疑応答、意見交換では、参加者皆様から活発に質問が出されたり発言がなされ、時間が足りないくらいでした。参加者のみなさんの「どうにかしたい」という思いが、会場に共有されたのではないのでしょうか。

参考文献に「縛らない看護」がありました。発行は1999年。もう四半世紀前から縛らないケアが追求されていたことを知り、25年経った現在も医療、介護、福祉現場で身体拘束が大きな問題になっている現実を、すべての職種の支援者が重く受け止めなければいけないと思います。これからもみんなで一緒に考えていきましょう。縛る支援を少しでも無くしていきましょう。

吉川先生、本当にありがとうございました。



# 令和6年度 第1回知的発達部会 総会

広報委員 武田 泰尚  
(竹の塚福祉園)

令和6年度第1回総会は、令和6年5月29日(水)にZOOMによるオンラインでの開催となりました。

## 【行政説明】

東京都の障害者施策について、東京都福祉局障害者施策推進部より説明がありました。

### 1 地域生活支援課からのお知らせ

- (1) 地域のニーズを踏まえた障害福祉サービス事業者の指定等について
- (2) 障害者グループホーム体制強化支援事業について
- (3) 地域生活支援拠点における緊急時受入体制支援事業について
- (4) 地域生活支援拠点連携強化支援事業について
- (5) サービスを担う人材の養成・確保事業(職員宿舍借上げ支援事業 他9事業)
- (6) 障害福祉サービス等情報公表制度の情報更新について

### 2 施設サービス支援課からのお知らせ

- (1) 施設整備補助事業について
- (2) 地域移行促進コーディネート事業
- (3) 都外入所者地域移行特別支援事業について
- (4) 障害者地域生活移行・定着化支援事業について
- (5) 障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業について
- (6) デジタル技術を活用した障害福祉サービス事業所等支援事業について
- (7) 令和6年度報酬改定Q&Aの送付について
- (8) 障害者支援施設等における医療機関との連携強化・感染症対応力の向上について
- (9) 集中的支援加算の実施について
- (10) 障害者支援施設等リハビリテーション職員配置促進事業について

### 3 連絡事項等

- (1) 施設・事業所における事故等防止対策の徹底について
- (2) 施設・事業所における虐待防止体制の整備の徹底について

## 【議決事項】

- ①令和5年度事業報告について
- ②令和5年度会計収支決算報告及び監査報告について  
上記の決議事項について、オンラインで過半数の承認を得られたため、可決されました。

## 【報告事項】

- ①令和6年度事業計画について
- ②大規模災害時対応マニュアルについて
- ③本人部会からの報告  
について報告がありました。③本人部会からの報告については、本人部会から当事者代表としてグループホームでの生活について報告がありました。

## 【記念講演】

「中央情勢報告～令和6年度報酬改定について～」  
講師：白石孝之氏

(公益財団法人日本知的障害者福祉協会)

白石氏より令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の改訂内容について、ご講演をいただきました。協会から厚生労働省に向けた要望の概要や各サービスの報酬・基準に係る見直しの内容等、分かりやすく解説をいただきました。今回の大きな報酬改定を踏まえ、今後も国の動向に注目していく必要があるとのことでした。

貴重な講演、ありがとうございました。

# じんけん Board

わたしの



ホッと



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

## <職員のにやり>

ご利用者のジュース購入に行っていないことに気づき、自ら提案し代わりに対応してくれました。体制がかなり厳しい状況であった為とても助かりました。

次の方の事を考えてリネン袋の準備をさせていました。周りの事を考えた行動ににやりです。

ご利用者と外出をする際、こちらの動きを見ながら気にしてしまいそうな他利用者の視線をさりげなく逸らしてくださいました。いつもさりげない気づかいに感謝です。

利用者の事で困ったことやこうした方が良いと思ったことを伝えると小さなことでもいつも優しく相談に乗ってくれます。ありがとうございます。

ご利用者ががシーネを外してしまうことに対して、ご本人が好きそうな絵を描いたりしてくれました。利用者に寄り添う姿勢に感銘を受けました。

七イベントを率先してお手伝いしてくださいました！沢山のご利用者で集合写真が取れました！ありがとうございます。

ご利用者の1日の水分摂取量の記録を見て、摂取量が少ないことに気がつき、退勤前に水分提供を行っていました。マニュアルに沿った支援だけでなく、都度必要とされる支援を考えている姿を見習いたいです。

朝落ち着かない様子が続いていたご利用者に気づき、ルーティーンがこなせなかったのが原因なのではないかと考えて、その日中止してしまった歯磨きを実施したら、ご利用者が落ち着くことができていました。

## <利用者のにやり>

はみがきの時、他の人が座るイスがなくて困っていたところ、「ここいいよ」とゆずってくれました。

近くで他の人が転んでしまったとき、すぐに近くにいき、心配してくれました。やさしさがステキです。

エプロン、顔拭きタオルなどいつもきれいに畳んでくださってありがとうございます！

## 川柳ぼーど

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

考えて  
言葉の重み  
その態度

作：ペンネーム KD

### 作品背景

利用者によっては職員が言葉で伝えたことが、実際の考えとは違った捉え方をしてしまうことがある。「良い腕時計してますね」とほめたつもりが、利用者から見た際には自分の時計が取られるのではないかと考える人もいます。言葉選びは慎重におこなっていききたいと思います。

汲み取ろう  
意思の表出  
意思決定

作：ペンネーム NK

### 作品背景

重度の障がいを持つ利用者はしゃべることができないかたがおおく、どう意思をくみとればよいかわからなくなることがあります。写真やイラストをみていただき、目線を追ったり、ご家族からの意見をきいたりやることは尽きないなど日々感じています。

採そうよ  
みんなの個性  
良いところ

作：ペンネーム KG

### 作品背景

支援をしていると、問題行動に対してよく注意してしまふことがある。利用者の悪い面だけを見るのではなく良い面をみて支援すると、支援が楽しくなっていますよ。

いい笑顔  
いい挨拶から  
いい支援

作：ペンネーム KF

### 作品背景

職員の暗い顔、明るい顔も利用者はみているんだなと、笑顔であいさつした時は良い返事が返ってきて、良い支援というのはここからはじまるのではないかと思えます。

## 入選作品

## 優秀作品

## 最優秀作品

押し付けない  
あなたにとっての  
当たり前

作：ペンネーム KY

### 作品背景

ごはんを残してしまう利用者にたいして「残さず食べてください」とだけ言ってしまふことがあるが、自分にとっての当たり前を押し付けるのではなく、どうして食べないのか、どうやったら食べてくれるのかを考える必要があると思えました。

その言葉  
伝える前に  
一呼吸

作：ペンネーム KB

### 作品背景

利用者とかかわる時間が長ければ長くなるほど、心の距離も近くなってしまう言葉遣いも丁寧でなくなってしまうことがあります。また、利用者の行動に対して感情的になつてしまい、誤った声掛けをしてしまうことがあります。そんなときに一呼吸おいて、その声掛けは適切なのか、少し考えることで感情も落ち付くことができました。

## 投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします（その旨記載してください）。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

### 手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

### FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

### メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp 宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

## 施設紹介

# 社会福祉法人あだちの里 江北ひまわり園

法人ミッションである「障がい者が地域と共に笑顔で生活できるように 私たちは応援します」を実現するため、足立区江北に社会福祉法人あだちの里 江北ひまわり園は平成31年4月1日に生活介護事業定員70名、就労継続支援B型定員20名で開設しました。

日暮里・舎人ライナー高野駅から徒歩で5分の緑が多い住宅街にあだちの里相談支援センターとの3階建ての複合施設となっております。

各事業の内容説明をさせていただきます。



江北ひまわり園

### 生活介護事業

【おりんぶ・ゆずグループ】身体に障がいのある方々のグループです。作業やストレッチ、レクリエーション等、様々な活動を用意し、身体機能の維持や向上を図りながら、意欲を持ち、楽しく過ごして頂けることを目指しています。

【あけび、かりんグループ】活動はウォーキング、創作、音楽活動、運動活動等週間プログラムのあるグループです。隔週の金曜日は特別活動があり、調理や買い物、フラワーアレンジメント等実施しています。身体を動かす活動から、社会とふれあう機会がある活動を実施しています。

【ひいらぎ・もくれんグループ】「作業」の時間は仕事を頑張り、「活動」の時間は思い切り楽しむ、メリハリを持ったグループです。「作業」では割箸の袋入れや、宅配食材のシート拭きをし、「活動」

では、iPadのアプリを活用したゲーム感覚の運動、手芸、調理等、楽しくもご利用者の「やりたい」を実現した活動が特徴です。

### 就労継続支援B型事業

【さくらグループ】パン製造を行っています。製造したパンは園内で営業している「さくらベーカリー」や地域の施設等で販売させていただいています。また、パンの製造以外にもペンや箱の組み立て等の作業を協力して行っています。

お近くに来られた際には喫茶コーナーから見えるワシントンから帰ってきた「里帰り桜」を眺めながら、出来立てのパンとコーヒーをご賞味下さい。



さくらベーカリーのパン



ジャガイモ掘り



施設前でお花見

## 施設紹介

# 文京槐の会 は～と・ピア

### 【文京槐の会】

平成3年3月に設立された東京都文京区内にある社会福祉法人です。

### 【名前の由来】

槐（えんじゅ）とは

マメ科に属する樹木の名称です。えんじゅ＝「延寿」に通ずる縁起のいい銘木とされ、長寿に通ずるといわれます。魔除の銘木としても珍重されています。葉は薬草に用いられ、表札や工芸品、建材では床の間に使用するなど大切にされ、「しあわせの樹」とも呼ばれることから法人名となりました。

### 【は～と・ピア施設紹介】

本部施設は住宅街の中にあり、近くには教育の森公園やラジオ体操発祥の地、大塚公園など、自然に囲まれた環境です。身体や知的に障がいのある方に日中の活動を中心とした、社会生活上の支援を提供する事業所です。利用者さんの特性に合わせて「つつじルーム」「だるまルーム」にフロアが分かれており、利用者さんの希望を聞きながら楽しく、安心した毎日を送ることを目指しています。

### 【活動紹介】

《公園清掃》地域の公園でゴミ拾いやゴミの分別を行っています。《創作活動》利用者さんと一緒に考えながら季節に合わせた作品を作り、毎年文京シビックセンターで行われている作品展「ふれあいの集い」に出品しています。《作業》受注した作業を利用者さんと行っています。作業の収

益は工賃へと繋がるので、利用者さん一人ひとり真剣に取り組まれています。《販売会》利用者さんと一緒に作った作品を、文京シビックセンターで開催されているハートフル工房や、毎月第2、4木曜日に大塚にある全国心身障害児福祉財団の前で販売しています。近くにお越しの際は是非遊びに来てください。《体操・ストレッチ》定期的に理学療法士や整体師による体操を行っています。《ボランティア活動》近隣の学校と連携して施設近くの通学路にて見守り活動を行っています。地域の皆さんには「ありがとう！」と御礼の言葉を頂いています。《余暇活動》ボウリング、カラオケ、運動会、旅行、個別外出、DVD鑑賞などを行っています。

「今なにをしたいのか?」「どんな活動をしたいのか?」を利用者さんに伺いながら楽しく、好きな活動に参加出来るように取り組んでいます。今後も安心して過ごせる環境づくりに努めて参ります。



販売している石鹸



販売会



公園清掃



槐の会外観

## 「新たな出会いの機会から」

51

社会福祉法人せたがや榎の木会  
世田谷区立千歳台福祉園 齊藤 由子

4月より今の事業所に異動してきました。『大きな声で元気な方だなあ』、『なんてはじける笑顔をされる方だろう』、『何にそんなに緊張されているのかな』等々。お互い何も分からない中での遠慮や緊張もありつつ、利用者のお一人おひとり、どんな方なのか知りたいと思うわくわく感は、初めましての時ならではの感覚です。

障害のある方、支援が多く必要な方は特に、“受動的”といわれる側面があります。食事やトイレ、移動、意思決定等々、日常生活の中で様々な配慮が不可欠だからかもしれません。ただ、こんなにも『どんな方だろう』とわくわくさせられるのは、ストレートな表現や取り繕わない姿にぐっと惹かれたり、本意の掴みづらさや抱える生きづらさに、何か手伝えることはないかと感じさせられたり、皆さんの懸命な姿に心を揺さぶられる思いになるからだろうと感じます。そして、その、『人の気持ちを動かす』ということは、ある意味、非常に能動的なこと、利用者の皆さんの持つ力なんだと改めて感じるどころです。

自分がどんな風に見られるか、どんな声かけをされるかによってリアクションは変わります。お

互いに影響し合う、人との関係の中で生活し、形作られている私たちです。『すてきな』『楽しいね』と捉え、『すてき』『楽しい』と伝えられると、お相手にもそれが伝わり、良い循環・関係が生まれてきます。逆に『何か噛み合わないな、困ったな』という時には、お相手も『分かってもらえない、困ったな』という感情が湧き、また困った言動が起こるという負の循環にもなり得るでしょう。

私たちは、そんな相互作用の中にいることをしっかりと弁えた上で、個々の障害や特性理解に努めること。いかに皆さんの言動を肯定的に捉えて、肯定的な言葉を返せるか、プラスのやりとりによって安心や自信を強くし、主体性や折り合える力を引き出していけるか、共に成長していけるか。そんな基本の大切さを振り返り、実践に移していかなければと考える今です。

皆さんの能動的な力、魅力や必要な配慮をきちんと発信し、肯定的に理解してくれる人をもっともっと増やしていけるよう、インクルージョンという考えが当然になっていくことも目指しつつ、願いつつ・・・です。

## 編集後記

新型コロナウイルスが流行してから、早いもので、約4年の月日が経ちました。コロナとの新生活にも慣れ、マスク着用なども緩和されてきましたが、福祉施設では、まだまだマスクを着用する機会も多くあります。

利用者の話を聞く中で職員がマスクをしていると、「笑っているのか」「怒っているのか」表情がわかりづらいとの話を聞きました。マスクをしていると表情で伝えられない分、声色や、話すスピード、言葉遣いなど、より丁寧な支援や配慮が必要だと感じました。

(調布福祉園 坂口 啓)